

新技術名：ナン赤星病に対する新規薬剤の防除効果（平成2年）
（スコア水和剤10の防除効果）

⑥・参

研究機関名 果樹試験場天王分場
担当者 加藤作美・深谷雅子

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

ナン赤星病に対するスコア水和剤10の防除効果を検討し、実用化を図る。

○経過と方法

- ① 長十郎7～8年生樹（鉢植）を赤星病菌の冬孢子堆が多発しているカイヅカイブキ樹に隣接させて設置し、甚発生条件で試験を行った。
- ② 散布時期・方法：開花直前、落花直後、落花1週間後の3回、背負い式動力噴霧機によりスコア水和剤10の4000倍液を十分量散布した。
- ③ 調査方法：最終散布から10日後に各区とも全葉について発生状況を程度別に調査した。

○技術の要旨

- ① スコア水和剤10の4000倍は発病が全く認められず、対照薬剤のビスダイセン水和剤1000倍よりも高い防除効果が認められた。
- ② 葉や果実に薬害の発生は認められなかった。
- ③ E B I 剤のスコア水和剤10はナンの赤星病および黒星病の同時防除剤として平成7年度の防除基準に採用した。

(2) もたらされる効果

ナン赤星病の防除剤として、すでに実用化されている他のE B I 剤と同等の効果が期待できる。また、黒星病に対しても効果が高く、両病害の同時防除が可能となる。

(3) 普及対象範囲

県内のナン栽培地域

(4) 普及上の留意事項

- ① 開花直前および落花直後に散布する。
- ② 耐性菌の出現を回避するためE B I 剤の総使用回数を年間3回までとする。
- ③ 普通物、魚毒性B類、収穫前14日、使用回数3回以内。

(5) 発表文献等

II 具体的なデータ等

表-1 スコア水和剤のナシ赤星病に対する防除効果

試験薬剤	希釈倍数	調査葉数	発病葉率	発病度*
スコア水和剤	4000	1069	0%	0
ビスダイセン水和剤	1000	668	7.6	4.2
無散布	—	609	90.0	79.8

$$\text{*発病度} = \frac{\Sigma(\text{指数} \times \text{程度別発病葉数})}{4 \times \text{調査葉数}} \times 100$$

発病程度：指数 1 ……病斑数 1～2
 2 ……病斑数 3～4
 3 ……病斑数 5～6
 4 ……病斑数 7 以上

発行年月	9506	キーワード	159
基礎分類	35	キーワード	192
作目名	36	キーワード	